

塩竈市都市マスタープラン 付属資料

1. 都市計画審議会
2. 都市マスタープラン改定有識者懇談会
3. 地域別懇談会
4. 都市マスタープラン策定委員会（庁議）
5. 庁内ワーキンググループ
6. 様々な世代との意見交換会



序章

I 章

II 章

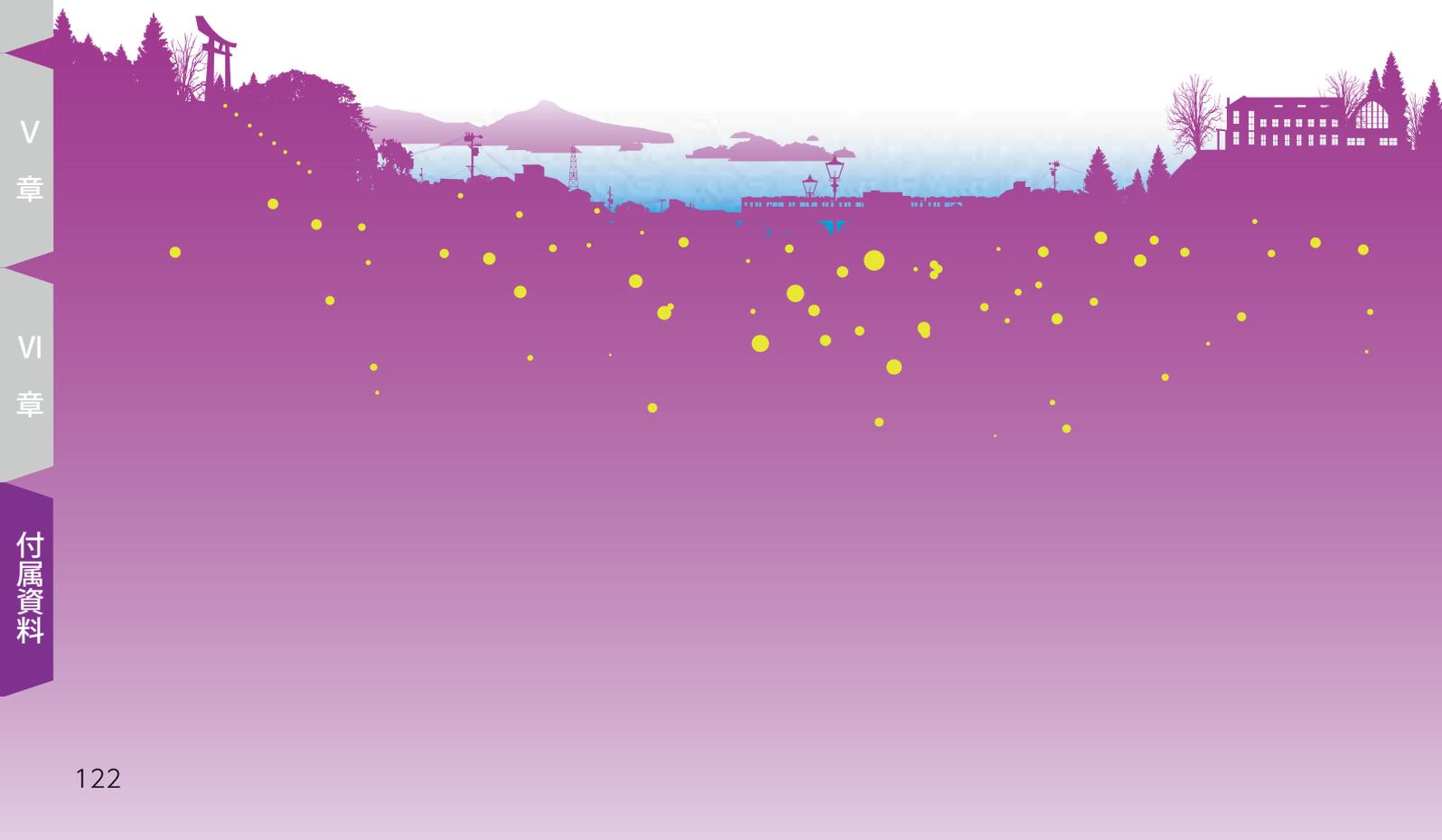
III 章

IV 章

V 章

VI 章

付属資料



1. 都市計画審議会

■委員名簿（敬省略）

部 門	氏 名	勤務先等	備 考	
学識経験者	建 築	岩井 紘子	(有)岩井紘子建築設計事務所	
	都市計画	姥浦 道生	東北大学大学院准教授	
	法 律	坂野 智憲	仙台弁護士会 会員 弁護士（坂野法律事務所）	
	商工経済	佐藤仁一郎	塩釜商工会議所 常議員 (株)ごんきや	
	歴 史	庄子 洋子	郷土史研究家	
	商工経済	鈴木 信弘	塩竈市水産振興協議会理事 ヤットハチ鈴木水産(株)	
	自然環境	盛合 禎夫	東北工業大学名誉教授	～平成 28 年 3 月 31 日
	地盤地質	千葉 則行	東北工業大学教授	平成 28 年 4 月 1 日～
	建 築	土井 儀憲	土井建築設計事務所	
市議会議員	議会議員	浅野 敏江	塩竈市議会議員	
	議会議員	伊勢 由典	塩竈市議会議員	
	議会議員	今野 恭一	塩竈市議会議員	
	議会議員	土見 大介	塩竈市議会議員	
	議会議員	山本 進	塩竈市議会議員	
県	県 職 員	門傳 淳	宮城県仙台土木事務所長	
市民	市 民	田中まゆみ	塩竈市立玉川小学校 元校長	

■開催経緯

開催年月日	会 議 名
平成 27 年 11 月 27 日	第 13 回 都市計画審議会
平成 28 年 10 月 13 日	第 15 回 都市計画審議会
平成 29 年 1 月 31 日	第 16 回 都市計画審議会
平成 29 年 3 月 17 日	第 17 回 都市計画審議会



第 13 回都市計画審議会



第 15 回都市計画審議会

2. 都市マスタープラン改定有識者懇談会

■議事概要

(1) 第1回有識者懇談会

- 都市マスタープランで大切な柱は将来都市像であり、地方創生の目指す方向に対して、戦略的に動いてもらいたい。
- 今後の高齢化に当たっては、公共交通を中心として歩けるまちにするべきである。
- 都市マスタープランでは、新しい土木の発想や新しいアーバンデザインも是非取り入れてほしい。
- 塩竈は自然と歴史が織り成すまちにしたらどうか。都市の中の自然として浦戸を位置付けるべきであると思う。
- 他でも交流人口を増やそうとしているので、多賀城や松島と連携した事業を展開すべきである。
- 将来において人口減少する中で、まちづくりの前に人づくりが必要である。
- まちの魅力としては行政と市民の方向性が一致していることが必要だと思う。
- 都市は“都”と“市”から成るように、帝と商業が中心である。市場をしっかり作り、新鮮なものを食べられることが大切である。
- 自治体がどこまで政策を打てるのか。そして自治体の個性をどう出すのか。しっかり取り組みば塩竈は売れると思う。



(2) 第2回有識者懇談会

- 塩竈は歴史的で豊かな良いまちなので100年先に向けて、都市計画の在り方について、夢のあるものになりたい。
- 塩竈に若い人たちが入ってくるようなまちづくりを進めないといけないと思う。
- 北浜緑地護岸と海岸通の再開発で人がどう来るか期待しており、観光面に十分生かしてほしい。
- 浦戸では、生活環境の向上や自然と親しみながら安心して生活できる環境づくりをしていきたい。
- ウォーターフロントゾーンではパブリックアクセスが重要であり、新しい塩竈の顔となるグランドデザインが必要である。
- 港町としての昔の風情を残しながら利便性の高い交通ネットワークを考えてほしい。
- 塩竈のポテンシャルからするとブランディングが出来ていないと思う。港町塩竈が本物だろう。



(3) 第3回有識者懇談会

- 塩釜駅前には食事処がない。駐輪場やロータリーは整備されたが駅前の舞台はなかなか活用されていない。
- 季節の風物詩が毎年積み重なって空間が出来上がる。
- 港が見える公園や展望台など、塩竈の景観を一望できる緑地があるとよい。視点場をつくることは大事である。



- 塩竈の問題としては、駐車場がない点、観光施設の営業時間が限られている点が挙げられる。
- 本塩釜駅と七ヶ浜の間にモノレールを走らせたかどうか。
- 浦戸諸島に自然水族館をつくと良い。島の教育は魅力的である。
- 公共的な交通機関から拠点に向けたパブリックアクセス整備は必要である。
- 港町は観光戦略上一番重要であるので、今後は緑地、交通整備、拠点づくりをしていくとよい。

(4) 第4回有識者懇談会

- 市民協働まちづくりについて個々の施策やまちづくりの機会を作してほしい。
- 浦戸の危険区域は嵩上げ整備を行っている。どう活用するかが課題である。
- 観光トレイルの中に体験型のものを盛り込めると良いと思う。
- 坂の多い塩竈ではユニバーサルデザインを意識すべきである。
- 高齢社会に向けて、歩くことは重要である。ヨーロッパにはトレイルが多くあって歩きたくなる。
- トレイルの環境整備については、奥の細道など歴史的資源を活用すべきである。
- 都市のリノベーションとして、空き家活用の施策を考えるべきである。
- 子どもが日なたで遊べる施設があるなど、海との親水性があるような北浜護岸にしてほしい。
- 都市マスタープランを策定したら、周知することが重要である。



■委員名簿（敬省略）

◎会長

部 門		氏 名
学識経験者	都市計画	◎風 見 正 三
	市民協働	佐々木 秀 之
市街地整備	商工業	鈴 木 あい子
	水産業	鈴 木 信 弘
	観光	横 田 善 光
	福祉	田 中 京 子
都市施設	交通・道路	水 野 暢 大
	流通・港湾	太 田 喜一朗
	鉄道・レジャー	若 生 輝 雄
自然環境整備	離島	内 海 糸 蔵

■開催経緯

回数	開催年月日	主 な 内 容
第1回	平成27年11月13日	・計画の概要及び現況の整理について ・これからの都市のあり方について
第2回	平成28年3月24日	・計画の全体構想案について
第3回	平成28年11月10日	・計画改定の取り組み状況について ・地域別構想（案）について
第4回	平成29年1月27日	・計画改定の取り組み状況について ・計画改定素案について

3. 地域別懇談会

■開催概要

(1) 東部地区

回数	開催年月日	出席者数	主な内容
第1回	平成28年7月13日	11人	・地域の良いところや問題について ・こうすれば地域がもっとよくなることについて
第2回	平成28年8月10日	11人	・地区のまちづくり目標・方針について ・アクションプラン(市民が身近にできること)について

<まちづくりアイデア>

- 人の集まる屋外施設やソフト面を充実させて、賑わいを創出する。
- 港周辺を赤レンガ風に整備するなどして、港や貞山運河の活用を図る。
- 遊休地に冷蔵倉庫を誘致して、活用を図る。
- 尾島町一本松線のイチヨウ並木を育成する。
- 釣りができるような親水性の向上を図る。



(2) 西部地区

回数	開催年月日	出席者数	主な内容
第1回	平成28年7月22日	12人	・地域の良いところや問題について ・こうすれば地域がもっとよくなることについて
第2回	平成28年8月5日	13人	・地区のまちづくり目標・方針について ・アクションプラン(市民が身近にできること)について

<まちづくりアイデア>

- 徒歩やバス等で行ける拠点の形成をして、塩釜駅・文教地区を活かしたまちづくりを行う。
- 多賀城市にある陸奥総社宮などの観光資源と連携したまちづくりを行う。
- 権現堂浄水場や熊野神社に公園の機能を付加する。
- 加瀬沼公園を白鳥の餌付け場、飛来地として観光化を図る。
- 加瀬沼公園に隣接する清水沢多賀城線の沿道を民間と共に開発する。
- 塩釜駅周辺のお店や食事処などを誘導し、活性化を図る。
- 善光寺や金毘羅山を参考にした鹽竈神社の整備をする。



(3) 南部地区

回数	開催年月日	出席者数	主な内容
第1回	平成28年6月1日	10人	・地域の良いところや問題について ・こうすれば地域がもっとよくなることについて
第2回	平成28年7月5日	12人	・地区のまちづくり目標・方針について ・アクションプラン(市民が身近にできること)について

<まちづくりアイデア>

- 通過交通への対策として、国道45号の4車線化を行う。
- 歩いて安全なまちづくりを行う。
- 塩釜駅から塩竈駅前線を、一国幹線までつながる道路となるように整備する。
- 市民で協力して空き地を集約して、市民のアイデアや提案に活用する。
- 塩釜港を観光港とし、観光コースとして金華山航路の運航をする。



(4) 北部地区

回数	開催年月日	出席者数	主な内容
第1回	平成28年6月18日	21人	・地域の良いところや問題について ・こうすれば地域がもっとよくなることについて
第2回	平成28年8月20日	15人	・地区のまちづくり目標・方針について ・アクションプラン(市民が身近にできること)について

<まちづくりアイデア>

- 景観整備や資源活用を行い、観光面の強化をして、交流人口・定住人口の増加を図る。
- 市民と協働で地域の魅力を発見する。
- 空き家の活用を図る。
- 太田屋前の「希望の広場」を復活させる。
- 探検できる魚市場や個人観光客が食べ歩きできる漁港を整備する。



(5) 浦戸地区

回数	開催年月日	出席者数	主な内容
第1回	平成29年2月7日	10人	・浦戸地域の島づくり方針について

<まちづくりアイデア>

- 優先順位を考えて、住民が住んでいるところなど必要なところから取り組む。
- 計画内で災害危険区域に描かれているレジャーゾーンの活用については、施設整備と合わせて道路や案内板の整備をする。
- ステイ・ステーションはより着業・定住できるような仕組みで活用する。
- 住民と行政が一体となり、できるところは住民自ら取り組む。

4. 都市マスタープラン策定委員会（庁議）

■庁議職員

所属・役職	氏名	備考
市長	佐藤 昭	
副市長	内形 繁夫	
教育長	高橋 睦磨	
市民総務部長	神谷 統	
政策調整監	佐藤 修一	
健康福祉部長	桜井 史裕	
産業環境部長	小山 浩幸	
建設部長	阿部 徳和	
建設部・震災復興推進局技監	熊谷 滋雄	～平成28年3月31日
震災復興推進局長	荒井 敏明	～平成28年3月31日
	熊谷 滋雄	平成28年4月1日～
市立病院事務部長	伊藤 喜昭	～平成28年3月31日
	荒井 敏明	平成28年4月1日～
水道部長	赤間 忠良	～平成28年3月31日
	高橋 敏也	平成28年4月1日～
教育部長	菅原 靖彦	
危機管理監	鈴木 正信	～平成28年3月31日
	千葉 正	平成28年4月1日～
総務課長	佐藤 俊幸	
政策課長	川村 淳	～平成28年3月31日
	相澤 和広	平成28年4月1日～
財政課長	末永 量太	

■開催経緯

開催年月日	会議名
平成27年4月28日	第1回都市マスタープラン策定委員会（庁議）
平成28年5月31日	第2回都市マスタープラン策定委員会（庁議）
平成28年11月9日	第3回都市マスタープラン策定委員会（庁議）
平成29年1月17日	第4回都市マスタープラン策定委員会（庁議）
平成29年3月22日	第5回都市マスタープラン策定委員会（庁議）

5. 庁内ワーキンググループ

■庁内ワーキンググループ職員

所属・役職		氏名	会議役割	備考
市民総務部	政策課長	川村 淳 相澤 和広	政策	～平成 28 年 3 月 31 日 平成 28 年 4 月 1 日～
市民総務部	財政課長	末永 量太	財政	
市民総務部	市民安全課長	伊藤 英史	防災・市民協働	
健康福祉部	子育て支援課長	木村 雅之	子育て	
健康福祉部	長寿社会課長	遠藤 仁 鈴木 宏徳	高齢社会	～平成 28 年 3 月 31 日 平成 28 年 4 月 1 日～
産業環境部	水産振興課長	並木 新司	水産振興	
産業環境部	商工港湾課長	佐藤 達也	商業振興	
産業環境部	観光交流課長	吉岡 一浩	観光振興	
産業環境部	環境課長	菊池 有司	環境	
産業環境部	浦戸振興課長	草野 弘一 村上 昭弘	離島	～平成 28 年 3 月 31 日 平成 28 年 4 月 1 日～
建設部	都市計画課長	阿部 光浩	都市計画	
建設部	土木課長	本多 裕之	都市基盤整備	
建設部	下水道課長	佐藤 寛之	下水道	
建設部	定住促進課長	佐々木 誠	定住促進	
震災復興推進局	復興推進課長	鈴木 康則	復興	
教育委員会教育部	生涯学習課長	本田 幹枝	教育・生涯学習	

■開催経緯

回数	開催年月日	主な内容
第 1 回	平成 27 年 10 月 27 日	・計画の概要及び現況の整理について ・現行計画の達成度の検証について
第 2 回	平成 28 年 2 月 9 日	・計画の全体構想について ・都市づくりの分野別方針について
第 3 回	平成 28 年 10 月 7 日	・計画改定の取り組み状況について ・全体構想（案）、分野別方針の概要及び地域別構想について
第 4 回	平成 28 年 12 月 26 日	・計画改定素案について

6. 様々な世代との意見交換会

①まちづくり懇談会

■議事概要

(1) 平成 28 年度第 1 回まちづくり懇談会

- 北浜護岸緑地や千賀の浦緑地などウォーターフロントの活用により塩竈はもっと魅力的になる。
- 定住を考えるにあたって、防犯や治安という視点は重要だと思う。空き地や空き家を少なくすることは防犯にもつながる。
- 浦戸地区の海苔や牡蠣などの基幹産業の活性化に向けて、ステイ・ステーションの活用などにより担い手が増えるような取り組みをしてほしい。
- 誰のためのまちづくりなのかを考えて取り組んでもらいたい。地域住民が主体となり実態を踏まえたまちづくりをしてもらいたい。
- 観光産業の発展のため、本町地区などの電線地中化の取り組みを推進してもらいたい。
- 高齢者が増えることから、健康増進のため、伊保石公園の充実化を図ったほうがよい。
- まちなかにも、景観を楽しむために山を登り神社を楽しむような散歩コースや防災道路としての整備など工夫をしたらどうか。
- 良好な住環境を構築するため、アクセス道路を中心に見直しをかけた方がよい。
- 公園整備について、遊具の充実など、子供や若い人の目線にたって整備していってほしい。

(2) 平成 28 年度第 2 回まちづくり懇談会

- 塩竈市内には多くの歴史的建造物があり、私たちの世代でなくすことがないように、守り続けなければならない。勉強会などを行うなどして歴史を語りついでいく必要がある。
- 浦戸諸島について、災害危険区域に指定された地域の活用が今後の最大の課題である。浦戸全体をどういう地域として考えていくかを議論する必要がある。
- 塩竈は宝の山である。市民がこのまちに住んでいてよかったと思えるようなまちづくりをしてほしい。市民と協働のまちづくりができるよう、このマスタープランが進んでいくとよい。
- マスタープランが子供たちにもわかりやすく伝わるような取り組みをしていくべきである。
- 国道 45 号線の 4 車線化について、メリットとデメリットを十分に検討していく必要がある。
- 住宅地の中で空き家・空き家が目立つようになってきているので、活用して定住促進につなげていけるとよい。
- 塩釜駅周辺の変則交差点は近隣住民にとっても非常に不便で危険であるため、対策をしてもらいたい。
- 松食い虫の被害が甚大である。松の木の保存などについても取り組んでもらいたい。

■参加団体（敬称略）

分野	団体名	出席者等
まちづくり	塩釜市青年四団体連絡協議会	鈴木 整
まちづくり	鹽竈海道まちづくり研究会	熊谷 典久
観光	塩竈市観光物産協会	丹野六右衛門
歴史・文化	NPO みなとしほがま	高橋幸三郎、佐藤健太郎
歴史・文化	よみがえれ！塩竈	黒瀧 英子
浦戸	塩竈市浦戸振興推進協議会	内海 糸蔵
浦戸	浦戸アイランド倶楽部	大津 晃一
美術	塩釜市芸術文化協会	庄子 文康
福祉	塩竈市婦人会	佐々木和恵
福祉・子育て	託児ボランティアグループ「そるとと」	鈴木佐久子
町内会	塩竈市東部地区町内会連絡協議会	船山 嘉明
町内会	塩竈市西部地区町内会連絡協議会	土井 萬平
町内会	塩竈市南部地区町内会連絡協議会	阿部 邦彦
町内会	塩竈市北部地区町内会連絡協議会	小野 正志
講師		
学識経験者	宮城大学事業構想学部 准教授	佐々木秀之

■開催経緯

回数	開催年月日	主な内容
第1回	平成28年10月28日	・地域別構想についての意見交換
第2回	平成29年1月13日	・計画全体についての意見交換



第1回まちづくり懇談会



塩竈市浦戸振興推進協議会



塩竈市婦人会



西部地区町内会連絡協議会

②塩竈の未来のまちづくりを考える会

■開催経緯

回数	開催年月日	出席者数	主な内容
第1回	平成28年11月29日	27名	・各分野におけるまちづくりの課題と解決策
第2回	平成29年2月23日	21名	・まちづくりで私たちができること

参加者（順不同・敬称略）

橋沼幸平・佐藤浩紀・相原健太郎・阿部昌弘・佐藤知圭子・中澤拓摩・赤間俊介
志賀巧基・田中大輔・武内基・小林崇・千田祐也・大江玲司・太田和洋・高田彩
菊地和也・小野寺真依子・渡邊敬久・鈴木博美・佐藤太一・大山裕人・大沼剛宏
黒瀧英子・川崎泰嶺・佐々木悠太・森収・丹治匡史・新田裕磨・荒井望見

※20歳代～30歳代を中心に参加者を集め、未来のまちづくりについて意見交換を行った。

〈第1回の主な意見〉

分野ごとのグループ（商業、産業、観光、定住・子育て）に分かれて、まちづくりの課題や解決策について意見交換を行った。

（商業グループ）

- 鹽竈神社裏坂の市有地は観光の拠点となる場所である。
- 本町商店街は表側からも裏側からも入れて楽しめるように、今ある道路を有効活用するべき。
- 市内は交通渋滞が多いが、それを逆手にとって道の駅を整備して利用につなげる。



（産業グループ）

- 一次産業から三次産業まで一体的に考えていく。
- 環境を生かして海藻の養殖などの強化を図るべきである。
- 従業者が儲かる仕組みづくりを行い、定住にもつなげる。



（観光グループ）

- 本塩釜駅周辺の空き家をリノベーションし、ゲストハウスにする。
- 塩竈らしさ（神社、食、歴史）で外国人観光客を呼び込む。
- 歴史的な建造物が壊されないように、個人所有のものでも維持・活用できる仕組みづくりをする。



（子育て・定住グループ）

- 近隣の市の大学生が住みたいと思えるまちになると良い。
- 市域が狭いので空き地や空き家の活用をする。
- まちなかに子どもが集える場所をつくる。



〈第2回の主な意見〉

分野ごとのグループ（産業、観光、定住、離島振興）に分かれて、テーマを設定し、課題点と「私たちができること」について意見交換を行った。

（産業グループ）

テーマ：塩釜の水産物の現状と発展について

- 水揚げされた魚が地元で消費されていない。
- マグロの漁獲量、加工場の減少、後継者不足も深刻である。
- 既存施設の活用により、魚だけでなく新鮮な生鮮食品が買える道の駅のような総合スーパーを作り、塩釜港で水揚げされた魚の販売ルートを確認していく。
- 魚に興味を持てるよう、魚のさばき方などの料理教室の開催や、カレンダーなどの作成で魚の消費拡大を目指す。



（観光グループ）

テーマ：インバウンドの推進について

- 近隣市町を含めた広域としてどう見てもらうかを考える。
- 塩竈に来て満足感を得てもらうような取り組みが必要である。
- 体験型の観光スポットを作っていく。
- Wi-Fi、トイレ、駐車場などのハード整備と合わせて、SNSなどの活用により塩竈の魅力を情報発信していく。



（定住グループ）

テーマ：空き家対策について

- 塩竈は利便性が良いが、それがあまり知られていない。
- 魅力づくりを合わせて行っていく。
- 塩竈独自の魅力を活用し、住んだ人が楽しめる場所を整備する。
- 地元出身の若い世代や近隣市町の人々が“おためし”で塩竈に住んでみることを目指せる仕組みづくりを作っていく。



（離島振興グループ）

テーマ：災害危険区域の活用について

- 災害危険区域をレジャーの拠点として整備していく。
- レジャーで来た人に手料理を食べさせたり、産地直送のモノを買ってもらったりする場所を整備する。
- 住んでいる人がお金を稼げるような仕組みを作っていく。



③塩釜高校みらいまちづくりワークショップ

■開催経緯

開催年月日	出席者数	主な内容
平成28年11月12日	8名	・市内まちあるき、市長との意見交換会など

参加者（順不同・敬称略）

佐藤響、磯上百華、菅原芹菜、本名妃菜季、佐藤和、久保友菜、日下佑希、小野未遥
宮城大学事業構想学部 准教授 佐々木秀之

〈市内まちあるき〉

参加者が2つのグループにわかれ、テーマとまちあるきルートを設定した。まちあるきでは、生徒それぞれがポラロイドカメラを用いてまちの様子の写真撮影を行った。

テーマ：「おしゃれな店を探そう」

「観光名所を探そう」



名所前での写真撮影



旧ゑびや旅館のカフェで



観光ガイドの方からの説明



商店主とのふれあい

〈まちあるきを終えて〉

まちあるき後、写真にコメントを添えるなどしてまちあるきマップを完成させた。生徒たちは、毎日通っている塩竈のまちの魅力再発見した。



撮影した写真へのコメント記入



まちあるきを終えての発表



宮城大学 佐々木秀之准教授



完成したまちあるきマップ

〈市長との意見交換会〉

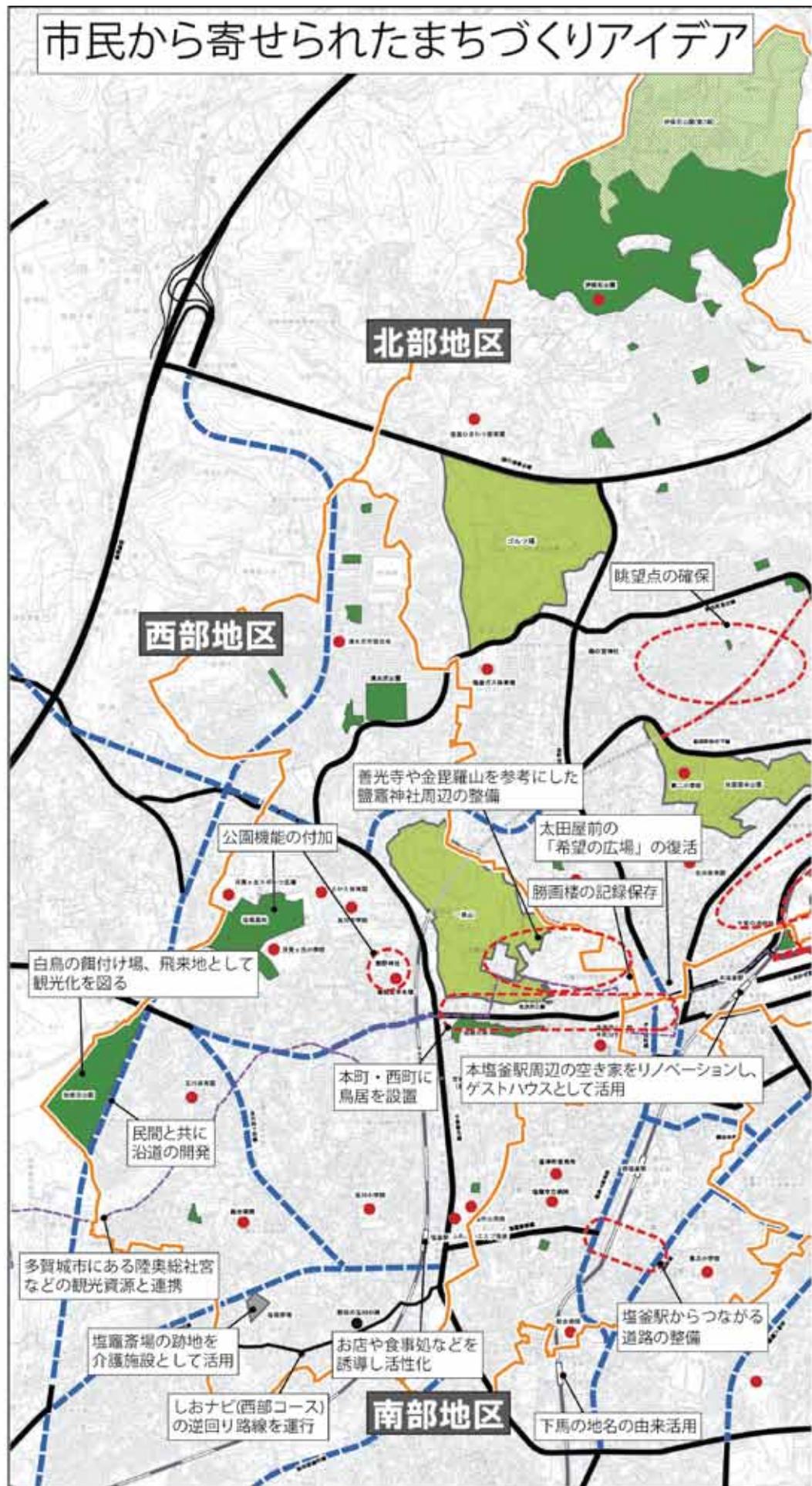
生徒は市長と昼食をとりながら、まちづくりについての意見交換を行った。

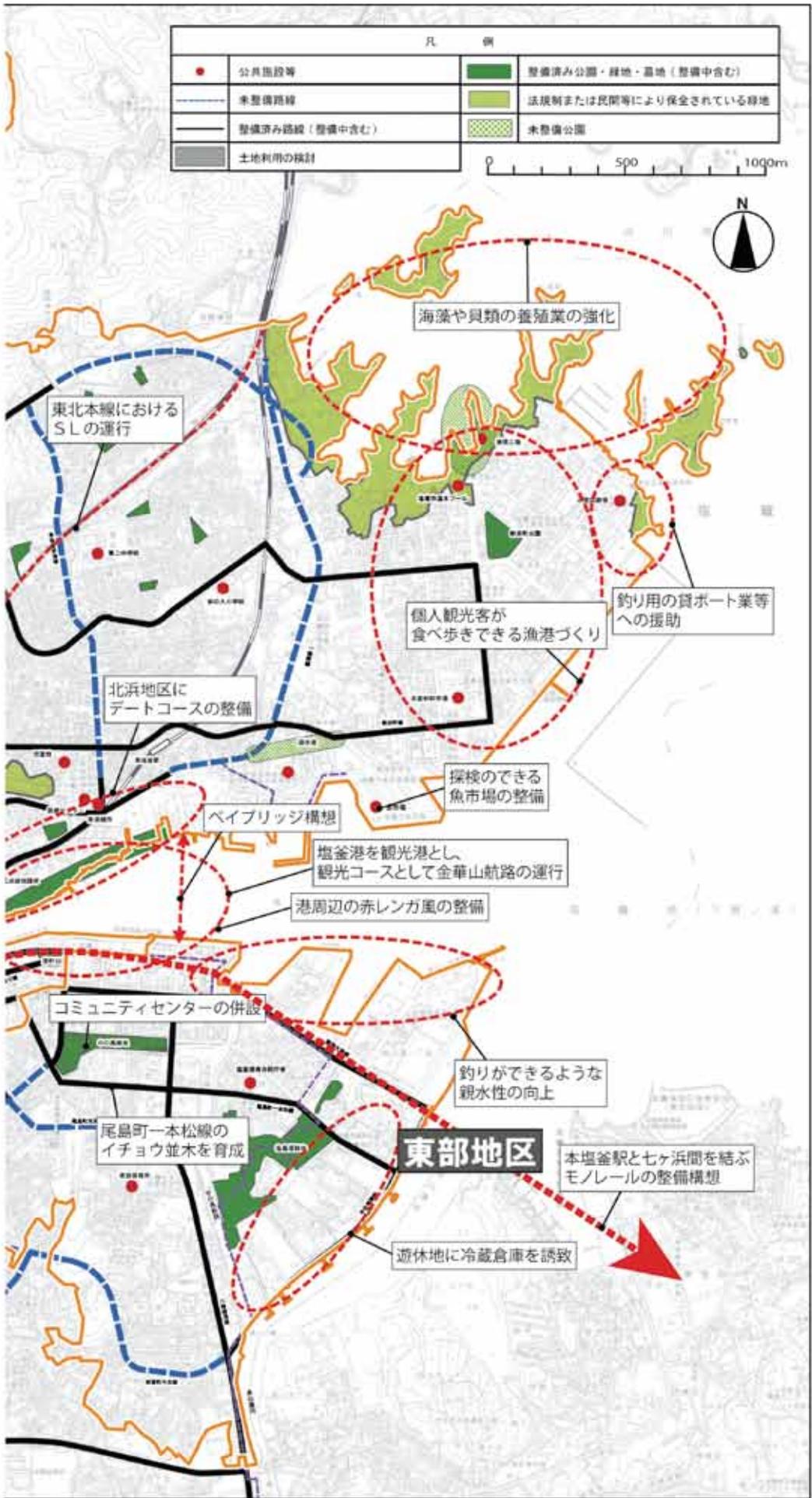


市長との意見交換



全員での記念撮影







塩竈市都市マスタープラン

平成29年3月 発行

塩竈市

編集 建設部都市計画課

〒985 - 8501 宮城県塩竈市本町 1-1

TEL 022-364-2510

FAX 022-362-7249



塩竈市都市マスタープラン
2017～2036